



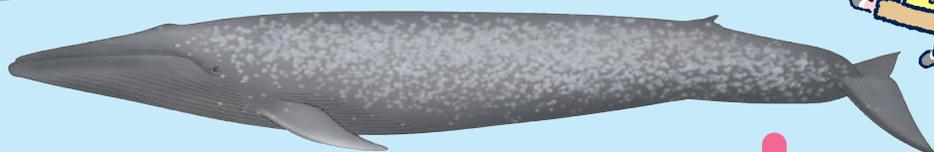
くじらのことを もっと知ろう

4~7ページでくじらのことが色々わかったね。
ここからはくじらの「身体」についての疑問きもんに答えるよ。

? くじらの体重ってどのくらい?

! くじらは海の中で浮く力があるんだ。なので重たい身体でも生きられるようになったんだ。中でもシロナガスクジラは最大約150トンもあるんだ。その重さはアフリカゾウ約20頭分なんだよ。

くじらの重さ



おっきいねー



シロナガスクジラ

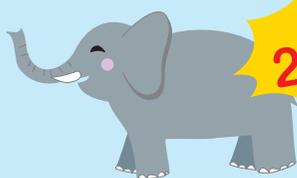
最大約150トン



ミンククジラ

約5~7トン

約
30頭分!



アフリカゾウ

約6~7トン

約
20頭分!



博士
ポイント

寒い場所では自分の息が白く見えるね。くじらの潮吹きしおふもそれと同じなんだ。長い時間海にもぐっているくじらは水面上がった時、肺にたまった空気を一気に放出するんだ。その放出された空気が体の外に出た時に冷やされて水分が白く見えるんだ。

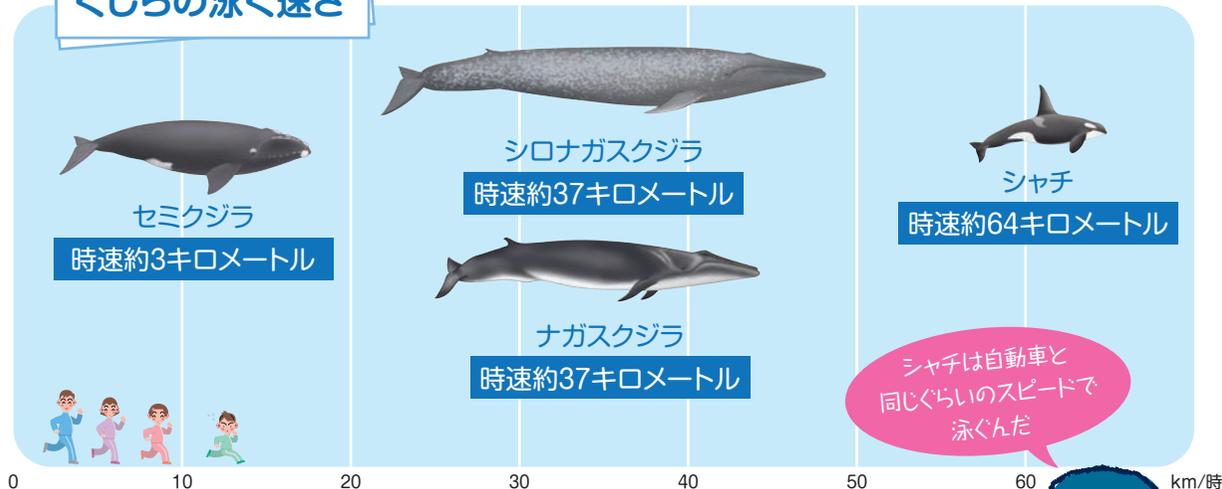
ナガスクジラの潮吹きしおふは細く高く上がるよ。マッコウクジラは左斜め前に上がるんだって。潮の吹き方でくじらの種類しよがわかるのも興味深いね。



? くじらの泳ぐスピードは?

! くじらの仲間の中でも最も速く泳げるのはハクジラ類のシャチ。時速約64キロメートルで泳ぐんだ。逆にのんびりと泳ぐのがヒゲクジラ類のセミクジラだよ。

くじらの泳ぐ速さ



セミクジラは人間がゆっくりと歩くくらいのスピード。一緒に散歩してみたいな!



? くじらは音が聞こえているの?

! 外見からはわかりにくいけれど、くじらには耳があるんだよ。耳の穴は目の少し後ろにあり、耳の穴に海水が入らないようふさがっているんだ。では、どのようにして音を聞いているんだろうと思うよね。実は、くじらはおごの先で「音の振動」を感じとり、その振動をおごの骨から耳まで伝えることで、音を届けているんだ。

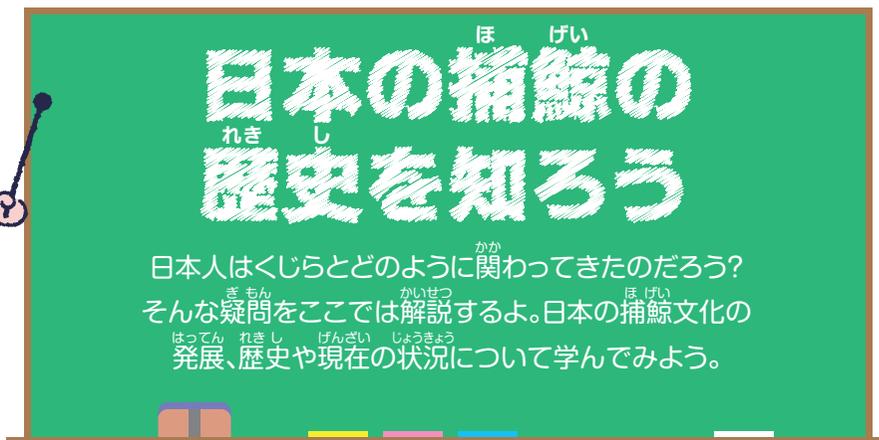
? くじらの年齢はどこでわかるの?

! ヒゲクジラ類は「耳あか」を、ハクジラ類は「歯」を調べると年齢がわかるんだ。シロナガスクジラだと120歳、イルカは35歳くらいまで生きるよ。

ビックリ!!!

200歳まで生きたホッキョククジラもいたんだって!





日本の捕鯨の歴史を知ろう

日本人はくじらとどのように関わってきたのだろうか？
そんな疑問をここでは解説するよ。日本の捕鯨文化の
発展、歴史や現在の状況について学んでみよう。

原始・古代の捕鯨

約6000年前の縄文時代早期の遺跡から、鯨類の捕獲や解体に使われたとみられる石器などが発見されているよ。また、約5000年前の遺跡からは鯨類の骨が大量に出土しているんだ。現存する日本最古の歴史書「古事記」(712年に作られた)の中にも、くじらが登場するんだよ。

中世・近世の捕鯨

中世の日本では、くじらがたまたま岸近くにやってきたときに銚子を使って捕まえることがあったみたいだ。江戸時代になると、太地では早くも1606年に、くじらを専門的に捕まえる集団が生まれたんだ。最初は銚子だけで、次に、網にくじらを絡ませた後に銚子を打つ「網かけ突き取り法」が発明され、それが四国や九州にも伝わって、くじらの肉や油が広く流通するようになったんだ。それまでは一部の人しか口にできなかったくじら肉も、多くの人たちが食べるようになったんだ。また、各地でくじらの墓などで供養を行うようになったり、唄や踊りなどくじらに関する芸能も発展していったよ。

はるか昔から日本人はくじらと関わりがあったんだね。



近代・現代の捕鯨

明治時代になるとノルウェーで開発された近代的な捕鯨船が日本の沿岸にも導入され、古式捕鯨は完全になくなり、1934年には遠い南極海にも日本の捕鯨船団が出漁するようになった。でも各国の船団が競争してくじらを捕ったため、大型のくじらの数が急に減ってしまったんだ。国際捕鯨委員会(IWC)は資源を持続的に利用するためにルールを厳しくしていき、多くの国々が捕鯨をやめてしまったんだ。そして、とうとうIWCは資源状態にかかわらず商業捕鯨を一時停止することを決定したため、日本は国際捕鯨取締条約(ICRW)で認められている調査捕鯨と、IWC管理対象外の種類のくじらの捕獲だけを行って、一時停止の見直しを求めてきたんだ。そして、2019年に日本はIWCを脱退して、日本の領海と排他的経済水域の内で行う商業捕鯨を再開したんだ。

太地町のくじら文化については20ページ以降で詳しく説明するよ。



日鯨研を
知ろう!

げい りい 日本鯨類研究所は どんな活動をしているの?

日本にはくじらについて調査したうえで、保護しながら、
ずっと安心してくじら肉を食べることができるよう
活動している研究所があります。



海にいるくじらの数を
かぞえるのは
とても大事な仕事だよ



げい りい ちようさ 日本鯨類研究所の主な調査内容

なんきょくかいげい りい し げん ちようさ 南極海鯨類資源調査(JASS-A※)

調査の目的は、大型鯨類がどれくらい海に生息しているのかを知るために必要な目視データを集めること。そして、自然標識の記録(個体識別写真の撮影)や衛星標識の装着、バイオブシー試料の採集を行ってこれら鯨類の資源管理に役立つ移動や繁殖海域の推定、個体および系群識別情報を集めることです。



げい りい もく し ちようさ IWC※/日本共同北太平洋鯨類目視調査 (IWC/POWER※)

この調査はIWC(国際捕鯨委員会)と日本が共同で行っているものです。過去数十年にわたって広域的な鯨類目視調査が行われていなかった北太平洋の調査も行ってきました。



げい りい し げん ちようさ 北太平洋鯨類資源調査

くじら資源の分布量および系統群や回遊行動などの生態学的情報を収集するために、北太平洋にて調査船を使用し、目視調査などのくじらをつらずに行える調査を実施しています。

ちようさ げんきゆう その他調査研究

- ・ストランディングレコード収集
- ・DNA分析など。



む じんこう くるう き UAV(無人航空機)の開発

新たな鯨類調査手法への活用を目指して、2019年からUAV(無人航空機)の新規開発も行っています。



げい りい ちようさ しゅほうかいほう 新たな鯨類調査手法開発への取り組み

UAVの活用により、調査船による調査が困難な海域においても、上空から目視データや環境データ等を集めることが可能になりました。より広範な海の気象状況や海域から情報を得て、詳細で正確な資源研究を進めるための技術開発です。

(※)用語解説は28ページ・29ページにあります。